

自昭和十七年十月十一日 第三十三特別根據地隊戰時日誌
至昭和十七年十月二十日

経過

(1) 一般情勢

東印方面各要地ノ戡定ハ殆ド完了セルモ敵ハ尚航空機及潜水艦ヲ以テ「ゲリラ」戦ヲ續行シツツアリ、又一部兵力ヲ以テ「スング」列島及「アル」タニンバル諸島方面ニ機動未襲ノ算ナシトセズ東印部隊ハ友軍陸海軍部隊ト協力シ擔任區域ノ防備ヲ嚴ニシ敵兵力ノ捕捉撃滅ヲ圖リツツアリ

(2) 敵軍ノ状況

當隊擔任區域ニハ殘敵ヲ認メザルモ海上ニ於テハ敵潜水艦ノ出没跡ヲ絶タズ又「スバ」島方面ニ於テ敵兵力數名陸上偵察ヲ行ヒタル形跡アリ且東印東部方面ニ於ケル敵航空機ノ未襲

0057

セル狀況ニテ鑑ミ小「スダ」方面ハ特ニ嚴重ナル警戒ヲ要ス

(ハ) 任務編制配備

(一) 主要任務 (機密東印部隊命令作第一號)

- (1) 小「スダ」列島ヲ制シ隣接警備部隊ト協力、下ニ北部濠洲及印度洋方面ニ対スル第一線據点ヲ確保ス
- (2) 擔任區域、防備警戒ヲ嚴ニシ之ヲ確保ス
- (3) 特ニ敵航空機、奇襲ニ備ヘ之ヲ擊破スルト共ニ敵潜水艦掃蕩ヲ積極的且徹底的ニ實施シ之ヲ擊滅ス
- (4) 隣接警備部隊ト連繫ヲ密ニシ海上交通線ヲ確保ス
- (5) 敵信利用ニ依リ敵情偵知ニ努ム

(ニ) 編制配備

- (1) 本隊及「ケダリ」分遣隊、編制配備左表ノ如シ

0058

本隊 (十月三十日現在)

部	司令部	士官	特務士官	下士官兵	計	装	備	配	備
	(四三)	九	一	二四					
陸	警衛隊	科長(特)							
砲	隊	警衛長(特)							
科	防空隊								
水	警科								
港	務補給科	(由一)	三	二五	一〇八				
通	信科	(特)	一	四三	四八				
機	関科	(特)	一	六九	七三				
医	務科	(由二)	六	二二	二九				
主	計科	(由二)	二	三八	四二				
計		(由六)	二五	六二〇	六七四				

備考(特)ハ特務士官ヲ以テ士官配置ニ充テ(兼)ハ業務ヲ執ル

0059

ロケットリール分遣隊 (十月三十一日現在)

計	主計科	医務科	機関科	通信科	港務補給科	水警科	警陸		本部	部隊	編
							防空隊	警衛隊			
二		一							一	士官	制
九				一	水警科 港務		一	五	一	特務士官	
三六三	一三	八	二七	一〇	同上	三七	七九	一八一	八	下士官兵	
三七三	一三	九	二七	一一	同上	三七	八〇	一八六	一〇	計	
											装備
						大砲 五隻	歩兵砲 二門 九五式輕戰車 一 四〇機銃(重) 四 八〇機銃(重) 四 八〇機銃(重) 四				
											配備
											ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊 ロケットリール分遣隊

0060

(2) 第三十三特別根據地隊麾下兵力部署

隊	主	區分	部	隊	兵力	部	隊	指揮官	擔任區域	主要任務

0061

西 小スンダ 警備隊	東 小スンダ 警備隊	第四警 戒隊	第三警 戒隊	第二警 戒隊	第一警 戒隊
第三警備隊	第六警備隊	「ケンブリ」方面所在艦艇	「メナド」方面所在艦艇	「マカッサル」方面所在特令艦艇	小スンダ諸島海域所在艦艇

三 特 別 根 據 地

第三警 備隊 司令	第六警 備隊 司令	先任 指揮官	先任 指揮官	先任 指揮官	先任 指揮官
小スンダ西部 (バリ、ロンボク、 スンバウ) 近海	小スンダ東部 諸島 (スンバ リス) 近海	「ケンブリ」及 「ブートン」島 近海	「メナド」近海 「モルッカ」近海 「セレベス」海	「マカッサル」近海	小スンダ 諸島海域
一 敵兵力撃破 二 對濠洲及印度 洋據点確保 三 所在附近警備 四 對空警戒 五 水陸施設整備	一 敵兵力撃破 二 對濠洲及印度 洋據点確保 三 所在附近警備			一 敵兵力撃破 二 哨戒敵潛掃蕩 三 海上交通確保	一 敵兵力撃破 二 哨戒敵潛掃蕩

0062

31

<p>隊空航</p>	<p>警備隊 「ケンボウ」</p>	<p>警備隊 「ケンボウ」</p>
<p>第三十五航空隊（一部缺）</p>	<p>第三十三特別根據地隊合遣隊</p>	<p>第三警備隊激遣隊</p>
<p>官 令 司 隊</p>		
<p>第三十五航空隊司令</p>	<p>合遣隊指揮官</p>	<p>激遣隊指揮官</p>
<p>「マカッサル」近海及小「スラ」諸島</p>	<p>東南部「セレベス」及「トリトン」諸島</p>	<p>北部「セレベス」</p>
<p>一 敵兵力撃破 二 上空警戒 三 対潜哨戒 四 敵情偵察 五 海上交通線確保 六 水陸施設整備</p>	<p>一 敵兵力撃破 二 占領地域確保 三 所在附近警戒 四 対空警戒 五 水陸施設整備 六 港務</p>	<p>一 敵兵力撃破 二 占領地域確保 三 所在附近警戒 四 対空警戒 五 水陸施設整備 六 港務</p>

0063

(二) 作戰指導

(一) 陸上作戰

小「スダ」方面防備強化ニ関シテハ曩ニ二十三特根本隊ヨリ特務
小尉以下一六〇名ヲ「ワインガップ」ニ第三警備隊ヨリ小隊長以下
一〇六名ヲ「デンパツサル」ニ派遣シ横一特司令ノ指揮下ニ入ル
等考慮スル處アリシガ、三日「スンバ」島東岸「メロコ」東方十三
軒海岸ニ敵兵數名上陸偵察セル形跡アリテ小「スダ」方面
ノ清勢容易ナラザルニ鑑ミ五日當隊副官海軍大尉太田
守ヲ「ワインガップ」方面派遣隊指揮官トシテ派遣シ又横一
特内地歸還ニ伴フ第六警備隊(仮稱)第三警備隊ノ
小「スダ」方面進出ヲ急速ニ實施シ十五日右部隊ノ進
出ヲ完了シ二十日附第六警備隊編制セラレ小「スダ」西
部ニ第三警備隊小「スダ」東部ニ第六警備隊ヲ配備

0064

シ同方面ノ防備ハ一層強化スルニ至レリ

(二) 海上作戦

「セレベス」島近海ニ於ケル敵潜水艦ノ出没特ニ頻繁トナリ
タル状況ニ鑑ミ海上交通保護ニハ警備艦艇ノ全カヲ
拵ゲテ之ヲ實施セリ
七月ノ中ノ敵潜出沒状況及經過
別圖其ノ其ニ及別表ノ通

(三) 航空作戦

三五空ハ主トシテ「マカツヤル」ニ在リテ船舶護衛對潜對空
哨戒ニ任ジツ敵情ニ應ジ各方面基地ヘ轉進準備ヲ整
フルト共ニ一部「ワインガップ」基地ニ進出セシメ小「スング」方
面ノ敵襲ニ備ヘタリ

(ホ) 戦備

(一) 七月三十日ニテ特根ヨリ轉用ノ三年式十二糎砲四門中二門

32

5

0065

ハコデンパツナルニ裝備八月十一日試射ヲ完了他ノニ門ハ「ワイン
ガツプ」飛行場海岸ニ裝備工事中ニシテ更ニ「ワインガツプ」
ニハ鹵獲八糧高角砲三門 同十糧平射砲二門 高角砲
一門ヲ裝備準備中ナリ
(二)「ケンダリー」鹵獲八糧高角砲 四門 裝備準備中ナリ

0066

自昭和十七年十一月一日
至昭和十七年十一月三十日 第三十三特別根據地隊戰時日誌

一 經過

(イ) 一般情勢

東印方面各要地ノ戡定ハ殆ド完了セルモ敵ハ尚航空機及
潜水艦ヲ以テ「ゲリラ」戰ヲ續行ジツツアリ。又一部兵力ヲ以テ
小「スンダ」列島及「アル」タニバル諸島方面ニ機動來襲ノ算
ナシトセズ。東印各部隊ハ友軍陸海軍部隊ト協力シ擔任區
域ノ防備ヲ嚴ニシ敵兵力ノ捕捉擊滅ヲ圖リツツアリ

(ロ) 敵軍ノ狀況

當隊擔任區域ニハ殘敵ヲ認メザルモ海上ニ於テハ尚敵潜水艦ノ
出沒跡ヲ絶タズ且東印東部方面ニ於ケル敵航空機ノ來襲水
上艦艇出現ノ狀況ニモ艦小「スンダ」方面ハ特ニ嚴重ナル警

23

0067

戒ヲ要ス

(八) 任務編制配備

(一) 主要任務 (機密東印部隊命令作第(一)號)

(1) 小「ス」列島ヲ割シ隣接警備部隊ト協力ノ下ニ北部濠洲及印度洋方面ニ対スル第一線據点ヲ確保ス

(2) 擔任區域ノ防備警戒ヲ嚴ニシ之ヲ確保ス

(3) 特ニ敵航空機ノ奇襲ニ備ヘ之ヲ撃破スルト共ニ敵潜水艦ノ掃蕩ヲ積極的且徹底的ニ實施シ之ヲ撃滅ス

(4) 隣接警備部隊ト連繫ヲ密ニシ海上交通線ヲ確保ス

(5) 敵信利用ニ依リ敵情偵知ニ努ム

(二) 編制配備

(1) 本隊及「ケ」グループノ分遣隊ノ編制配備左表ノ如シ

0068

34.

備考 (兼) 八業務略

本隊 (十月三十日現在)

計	主計科	医務科	機関科	通信科	港務補給科	水警科	警科		陸警衛隊	司令部	部隊		計	裝備	配備
							砲隊	防空隊			士官	隊			
(兼六) 二五	(兼二) 二	(兼二) 六	一	一	(兼二) 三	一			科長 (兼一)	(兼三) 九	士官	准士官	下士官兵		
二九	三	一	三	五	三	三	一	一	七	二					
六三五	四一	二二	六五	四三	二八	一一二	二八	五三	二二一	二六					
(兼六) 六八九	四六	二九	六九	四九	三四	一一六	二九	五四	二三〇	三三					
											裝備				
											九式輕裝甲車 一台				
											七五機山砲 四門				
											三五機銃 一基				
											大砲 四隻				
											陸警衛隊ヨリマロス				
											飛行場整備ノ為				
											ニテ分隊派遣				
											「バルバロ」ワタシ「ポネ」				
											「ボニヤン」カ「ジヤン」				
											「ジヤン」等ニ防空				
											見張所ヲ配ス				
											其他「マカサ」中				
											附近ノ警備ニ従事				

0069

「分隊」令遣隊（十月三十日現在）

計	主計科	医務科	機関科	通信科	港務補給科	水警科	警衛隊		本部	部隊	編制
							防空隊	警衛隊			
二		一							一	士官	割計
九			一	一	水警科 兼務科		一	五	一	准士官	
三五八	一三	八	二六	一〇	同上	三七	七九	一七七	八	下士官兵	
三六九	一三	九	二七	一一	同上	三七	八〇	一八二	一〇	計	
											裝備
											配備
											<p>火警 五隻</p> <p>九式輕戰車 二門 四〇輕機銃(重連) 四 四〇輕機銃(重連) 四 他ハ分隊ニ於テ 警備ニ從事 「コライ」ウツ「ラハ 「ババウ」ニ防空見張 ヲ配ス</p>

0070

(心) 第三十三特別根據地隊麾下兵力部署

隊	主	區分	部
		兵力	
新興丸 第五十四驅潛隊 (下長良丸) 第一昭南丸、第二昭南丸 (敷三敷、四敷、一二特務驅潛) 第三海南丸、六驅潛 十一掃 (佐世保予機関修理中)	別隊 水警隊 防空隊 陸警隊 警衛隊砲隊 (一部缺) 三五花機銃小队 大砲四隻拿捕艇二	司令	部
		隊	及
第十		指揮官	擔任區域
率		直	
近「セレス」島		南「セレス」島	主要任務
一 全作戦支援 二 敵兵力撃破 三 占領地域確保 四 對空警戒 五 哨戒敵掃掃蕩 六 海上交通確保 七 港務 八 水陸施設整備			

0071

警備隊 西 小スンダ	警備隊 東 小スンダ	警備隊 第四	警備隊 第三	警備隊 第二	警備隊 第一
第三警備隊	第六警備隊	「ケンダリー」方面所在艦艇	「メナド」方面所在艦艇	「カッサル」方面所在特令艦艇	小スンダ諸島海域所在艦艇

三 特 別 根 據 地 隊					
第三警備隊司令 近海	第六警備隊司令 近海	先任指揮官 近海	先任指揮官 近海	先任指揮官 近海	先任指揮官 諸島海域
バリコボラ	小スンダ東部	「ケンダリー」及「ブイトン」島	「メナド」近海 「モルッカ」近海 「セレベス」海	「カッサル」近海	小スンダ
五 水陸施設整備	四 対空警戒	三 所在附近警備	二 據点確保	一 敵兵力撃破	一 敵兵力撃破 二 哨戒敵潜掃蕩 三 海上交通確保

0072

36.

<p>隊 空 航</p>	<p>「ケンダリ」 警備隊</p>	<p>「メナド」 警備隊</p>
<p>九三二空 三三〇基地 派遺隊</p>	<p>第三三特別根據地隊分遣隊</p>	<p>第三警備隊派遺隊</p>
<p>官 令 司</p>		
<p>派遺隊 指揮官</p>	<p>分遣隊 指揮官</p>	<p>派遺隊 指揮官</p>
<p>「マカッサル」近 海及小島諸島</p>	<p>東南部 「セレベス」及 「アト」諸島</p>	<p>北部 「セレベス」</p>
<p>一 敵兵力撃破 二 上空警戒 三 対潜哨戒 四 敵情偵察 五 海上交通線確保 六 水陸施設整備</p>	<p>一 敵兵力撃破 二 占領地域確保 三 所在附近警備 四 対空警戒 五 水陸施設整備 六 港務</p>	<p>一 敵兵力撃破 二 占領地域確保 三 所在附近警備 四 対空警戒 五 水陸施設整備 六 港務</p>

4

0073

(二) 作戰指導

(一) 陸上作戰

量取ニ第三及第六警備隊ヲ小スンダ列島ニ配セラレ夫々西小スンダ
及東小スンダノ警備ニ任ジツツ下リタル處十月十二日陸軍部隊
一四〇〇名「スンバ」島ニ進駐シ陸海軍協同防衛ニ當リ同島ノ防
備ハ一層強化セララルニ至レリ

(二) 海上作戰

「セレベス」島近海ニ於ケル敵潜水艦ノ出沒特ニ頻繁トナリタル
狀況ニ鑑ミ海上交通保護ニハ警備艦艇ノ全カヲ集中シテ之ヲ實
施サリ十月中ノ敵潜出沒狀況及経過別表(一)(二)及別圖共一
共ニノ通

(三) 航空作戰

十月十日附九五六航空隊ハ基地航空部隊ニ編入セラレタルヲ以テ

0074

27

九三三空ノ一部激遣セラレタリ。何レモマカッサルニ在リテ敵情ニ應ジ
小ステラ方面ヘノ轉進準備ヲ整フルト共ニ船舶護衛對潜對空哨戒
ニ任ゼリ。

5

0100

0075

別表(一)
十月中敵潜出没經過

月日	位置	概	要
十月四日	ES 五度四六分 E 二六度	屏東丸潜望鏡發見	爆雷三投下
十月七日	「カミヤル」北西一〇哩附近	通信味報	
十月九日	EN 五度 E 二五度	21 CG 方位測定	
十月十日	ES 一度三十分 E 二六度三十分	21 CG 方位測定	
十月十一日	S 五度 E 二四度	十七号南丸 巨離三十米 潜望鏡發見 爆雷投射(三)	
"	N 一度十九分 E 二九度 四〇分	新興丸雷撃ヲ受ク被害ナシ 第五号潜艇攻撃爆雷二個投射 確殺	
"	EN 二度 E 二八度	21 CG 方位測定	
十月二十日	ES 八度五五分 E 二九度三五分	共島鷹丸探知 攻撃制圧	
十月二十日	ES 九度四九分 E 二二度三三分	一號驅潜艇探知 攻撃	
十月三十日	「クワパン」 九二度二三〇哩	23 SF 飛行機浮上 發見 直ニ潜没ニ隻	

0076

自昭和十七年十二月一日
至昭和十七年十二月三十一日

第二十三特別根據地隊戰時日誌

一、經過

(一) 一般情勢

東印度方面各要地ノ戰是ト相俟ツテ敵水上艦艇ノ出沒ハ殆ド認メザル
モ航空機及潜水艦ヲ以テケリテ戰ヲ續行シツツアリ尚最近敵ハ北部
濠洲方面及南太平洋方面ヲ基地トシ活潑ナル動キヲ見セ又一部兵力
ヲ以テ小スンダ列島及「チモール」島「アル」タニンバル諸島方面機動攻撃
ノ算ナシトセズ

東印各部隊ハ友軍陸海軍部隊ト協力シ擔任區域ノ防備ヲ強化スル
ト共ニ敵兵力ノ捕獲撃滅ヲ圖リツツアリ

(二) 敵軍ノ狀況

當隊警備擔任區域ニ殘敵ヲ認メザルモ海上ニ於テハ尚敵潜水艦ノ出
沒跡ヲ絶メズ且東印東部方面ニ於ケル敵航空機ノ來襲水上艦艇ノ出

0077

現ノ狀況ニモ鑑ミ小スンダ列島及ケンタリ方面ハ特ニ嚴重ナル警戒ヲ要ス

(ハ) 任務編制配備

(一) 主要任務 (機密東印部隊命令作第一號)

(1) 小スンダ列島ヲ制シ隣接警戒部隊ト協力シ下ニ北部濠洲及印度

洋方面ニ對シ第一線據點ヲ確保ス

(2) 擔任區域ノ防備警戒ヲ嚴ニシテ之ヲ確保ス

(3) 特ニ敵航空機ノ奇襲ニ備ヘ之ヲ撃破スルト共ニ敵潜水艦ノ掃蕩ヲ

積極的且徹底的ニ實施シ之ヲ撃滅ス

(4) 隣接警戒部隊ト連絡ヲ密ニシ海上交通線ヲ確保ス

(5) 敵信利用ニ依リ敵情偵知ニ努ム

(ニ) 編制配備

(1) 本隊及ケンタリ山分遣隊ノ編制配備左表ノ如シ

本隊(十二月三十一日現在)

部	司令部	陸警衛隊	警砲隊	科防隊	水警科	港務補給科	通信科	機関科	医務科	主計科	計	編	制	計	裝備	配備
	(四兼一)	(四兼一)				(四兼一)			(四兼一)	(四兼五)						
官	八	二	一		三	三	一	一	九	三	三一					
准士官	一	五			一	一	五	三		一	八					
下士官兵	二二	二二	五三	二八	一五	二五	四三	六六	二三	四一	六三八					
計	三一	二二九	五四	二九	一一九	二九	四九	七〇	三二	四五	六八七					
												九四式輕特甲車 行場警備ノ爲 分隊派遣				
												大銃 四隻 五種機銃一基 七五榴山砲四門				
												陸警ヨリコトス ハレクワタンボ ボクンタイ カヤンカン等ニ防 界環所ヲ配ス 其ノ他カヤン山 近ノ警備ニ依リ				

備考(兼)兼務略

39

0079

ケンタリ山分遣隊（十二月三十一日現在）

計	主計科	医務科	機関科	通信科	港務補給科	水警科	陸警科		本部	部隊	編	制
							警衛隊	防空隊				
(四) 四		一				一		警衛隊長兼一	二	士官		
八			一	一	水警科兼務		一	五		准士官		
三五三	一三	六	二六	一〇		三七	七九	一七五	七	下士官兵		
(四) 三六五	一三	七	二七	一一		三八	八〇	一八〇	九	計		
										装	備	
										配	備	

歩兵砲 二門
九式軽戦車 一台
四〇機銃 四挺
八号高射機銃 四挺
大発射機 五挺

トマロニ三ヶ分隊
ケンタリ山飛行場
ニヶ小隊
アイトニ一ヶ小隊
派遣整備二任ジ
他ハケンタリ山ニ於テ
整備ニ従事
マスロウケニヨリ
バウケニ防衛員被
所ヲ配ス

0080

40

(2) 第二十三特別根據地隊麾下兵力部署

隊	主		區分	部
	新興丸 第五四駆掃隊(長良丸系(昭南丸系二昭南丸)) 第一號敷設艇 第四號敷設艇 第三海南丸	蒼鷹丸 第二號敷設艇 一〇駆掃特務艇 一二駆掃特務艇 第六號駆掃艇		
第十 二 第				
率			指揮官	
近セレバ以島海			南都 セレバ以島	
七港 八水陸施設整備			主要任務 一 全作戦支援 二 敵兵力撃破 三 占領地域確保 四 對空警戒 五 哨戒敵掃掃掃 六 海上交通確保 七 港務	

0081

西 小スンガ 警備隊	東 小スンガ 警備隊	第四警 隊	第三警 隊	第二警 隊	第一警 隊
第三警備隊	第六警備隊	ケンカリ方面所在艦艇	メナド方面所在艦艇	マカッサル方面所在特令艦艇	小スンガ諸島海域所在艦艇

三 特 別 報 據 地

第三警 備隊 司令	第六警 備隊 司令	先 任 指 揮 官	先 任 指 揮 官	先 任 指 揮 官	先 任 指 揮 官
近 小スンガ西部 (マカッサル近海)	近 小スンガ東部 諸島(スレバエ)	近 ケンカリ及 アトニ島海	近 メナド近海 モルッカ近海 セレベス海	近 マカッサル近海	近 小スンガ 諸島海域
一 敵兵力撃破 二 對濠洲及印度洋 據點確保 三 所在附近警備 四 對空警戒 五 水陸施設整備	一 敵兵力撃破 二 哨戒施設掃蕩 三 海上交通確保				

0082

41.

<p>隊 空 航</p>	<p>警備隊 ケンガリ</p>	<p>警備隊 メナド</p>
<p>九五三空三三。基地派遣隊</p>	<p>第三特別根據地隊分遣隊</p>	<p>第三警備隊派遣隊</p>
<p>官 令 司 隊</p>		
<p>派遣隊 指揮官</p>	<p>分遣隊 指揮官</p>	<p>派遣隊 指揮官</p>
<p>ブカッサル近海 及小スンガ 諸島</p>	<p>東南部 セレベス及 アトロン島</p>	<p>北部 セレベス</p>
<p>一敵火力撃破 二上空警戒 三對潜哨戒 四敵情偵察 五海上交通線確保 六水陸施設鬆出備</p>	<p>六港 務</p>	<p>一敵火力撃破 二占領地域確保 三所在附近警備 四對空警戒 五水陸施設鬆出備 六港 務</p>

4

0083

(二) 作戰指導

(一) 陸上作戰

敵ハ南方水域殊ニ小スンガ列島、タニバル諸島方面ニ及撃ヲ企圖スル
モノノ如ク、曩ニ南西部隊電令作第五四號及第五五號ニ依ル警戒ヲ嚴ニスル
共ニ麾下ニ對シ特ニ嚴重ナル對空警戒ヲ實施シ防備強化ニ努メ極力諸
訓練ヲ實施シ戰務的教育ノ徹底就中陸戰ヲ主トシ戰力ノ向上ニ努ム

(二) 海上作戰

「セレバ」近海ニ於ケル敵潜水艦ノ出沒特ニ頻繁ナル現状ニ鑑ミ機密中
警備部隊命令第20號ヲ發令港灣附近ノ對潜哨戒ヲ持湯ヲ實施
シ特ニ海上交通保護ニ警備艦艇ノ全力ヲ擧ゲテ之ヲ實施セリ
十二月中、敵潛出沒狀況及經過別表(一)及別圖其ノ一其ノ二ノ通

(三) 航空作戰

九三ニ空ノ一部ヲ以テ、マカツルニ在リテ敵情ニ應ジ小スンガ方面ヘノ轉進準備

42
ヲ整フルト共ニ南隊担任整備區域ノ船舶護衛對潛對空哨戒ニ任ゼリ

(六) 戰備及政策事項
一) 戰備

極力之が充實ス圖ルト共ニ特ニ訓練ノ勵行ト相俟ツテ人的戰力ノ充實ニ
努メ敵產兵器ノ活用ヲ計リ兵器需品ノ尊重愛護ノ念ヲ喚起セシメ物的
戰力ノ低下ヲ防止シ之が完備ノ狀況ニテリ

(二) 政策事項

進駐一ケ年ヲ迎ヘテ南方面ノ復興治安ノ回復ハ順調ニ進捗シ特ニ現
住民ヲシテ皇軍ニ信賴ノ念ハ一層高ラレツアリ其ノ他民政府民政部
ト緊密ナル連絡ヲ保テ産業開發茲ニ軍需資源ノ開發促進等積
極的ニ支援ニ努ム

0085

別表
十二月中敵潜出没経過

月日	位置	概要
上月七日	ES 一〇度四十分 E 一三度一六分	新興丸雷撃ヲ受ク被害ナシ 各艦高攻撃ニ向フ
八日	EN 一〇度五九分 E 一七度三九分	球磨雷撃ヲ受ク被害ナシ 爆雷ニ投射
九日	「タラカン」東一五度附近	SC 方位測定ニ依ル推定位置
九日	「マカツサル」近海	敵潜ト推定 通信探報
一四日	ES 一七度四十分	2207 情報
二五日	「スラバヤ」水道北口	「スエズ」丸雷撃ヲ受ク
三〇日	「カンカ」 南緯六十度	金山丸敵潜、砲撃ヲ受ク沈没

0086

C3.

海軍大臣 殿

二十三特別根據地隊戰時日誌

自昭和十七年十二月一日

至昭和十七年十二月三十一日

月

日提出

7/30

南洋編纂部 第九號



0087

二十三特別根據地隊戰時日誌

二十三特別根據地隊

目次

一 経過

二 人員ノ現状

三 令達報告等

四 参考

五 作戦経過概要

六 添付書類

七 ケンダリ分遣隊戦時日誌 (別冊第一)

八 第一號敷設艇戦時日誌 (第一)

九 第四號敷設艇戦時日誌 (第三)

一〇 第一〇號駆潜特務艇戦時日誌 (第四)

一一 第二三號駆潜特務艇戦時日誌 (第五)

(目次終)

0088

自昭和十七年十二月一日
至昭和十七年十二月三十一日

第二十三特別根據地隊戰時日誌

一 經過

(一) 一般情勢

東印度方面各要地ノ戰是ト相俟テ敵水上艦艇ノ出沒ハ殆ド認メザル
モ航空機及潜水艦ヲ以テ、ヤリラ戦ヲ續行シツツアリ尚最近敵ハ北部
濠洲方面及南太平洋方面ヲ基地トシ活潑ナル動キヲ見セ又一部兵力
ヲ以テ小スンダ列島及「チモール」島「アル」タニバル諸島方面機動攻撃
ノ算ナシトセズ

東印各部隊ハ友軍陸海軍部隊ト協力シ擔任區域ノ防備ヲ強化スル
ト共ニ敵兵力ノ捕捉撃滅ヲ圖リツツアリ

四) 敵軍ノ狀況

當隊警備擔任區域ニ殘敵ヲ認メザルモ海上ニ於テハ尚敵潜水艦ノ出
沒跡ヲ絶タズ且東印東部方面ニ於ケル敵航空機ノ來襲水上艦艇ノ出

44.

0089

現ノ狀況ニモ鑑ミ小スンガ列島及ケンガリ方面ハ特ニ嚴重ナル警戒ヲ要ス

(ハ) 任務編制配備

(一) 主要任務 (機密東印部隊命令作第一號)

(1) 小スンガ列島ヲ制シ隣接警備部隊ト協力ノ下ニ北部濠洲及印度洋方面ニ對スル第一線據點ヲ確保

(2) 擔任區域ノ防備警戒ヲ嚴ニシテ之ヲ確保ス

(3) 特ニ敵航空機ノ奇襲ニ備ヘテ之ヲ撃破スルト共ニ敵潜水艦ノ掃蕩ヲ積極的且徹底的ニ實施シ之ヲ殲滅ス

(4) 隣接警備部隊ト連絡ヲ密ニシ海上交通線ヲ確保ス

(5) 敵信利用ニ依リ敵情偵知ニ努ム

(ニ) 編制配備

(1) 本隊及ケンガリ分遣隊ノ編制配備左表ノ如シ

0090

本隊(十二月三十一日現在)

部	司令部	士官	准士官	下士官兵	計	裝 備	配 備
	(四兼一)	八	一	二二			
陸	警衛隊	(四兼一)	二	二二	二二	九四式輕裝甲車 行揚警備ノ爲ニ 分隊派遣	陸警ヨリ「コ」ニ 行揚警備ノ爲ニ 分隊派遣
	砲隊	一	一	五三	五四		
水	警科		一	一一五	一一九	五五種機銃一基 大 銃 四隻	バレン、ワタンボネ ボクタン、カダヤン カヤン、カニ等ニ防空 用彈所ヲ配ス 其ノ他「カ」ツル此隊 近ノ警備ニ使ス
	港務補給科	(四兼一)	三	二五	二九		
通	信科		一	四三	四九		
	機関科		一	六六	七〇		
医	務科	(四兼一)	九	二三	三二		
	主計科	(四兼一)	三	四一	四五		
計	(四兼五)	三一	八	六三八	六八七		

備考(兼)兼務略

40

0000

0091

カンナリ山分遣隊（十二月三日現在）

計	主計科	医務科	機関科	通信科	港務補給科	水警科	陸	警	本	部	隊	編
							警衛隊	防空隊				
(四葉) 四		一				一		警衛隊長兼一	二			
八			一	一	水警科兼務			五				
三五三	一三	六	二六	一〇		三七	七九	一七五	七			
(四葉) 三六五	一三	七	二七	一一		三八	八〇	一八〇	九			
											装	備
											配	備
											歩兵砲 二門 九式軽戦車 一台 四〇機銃(重機銃) 四 八〇機銃(重機銃) 四 八〇高射砲(重砲) 四 大天芥 五隻	
											カンナリ山飛行場 三二五小队 アモイト二一六隊 派遣整備二佐シ 他カンナリ山三佐シ 整備二佐シ コラスイ、ウクレ、ロア、ハカ、ウ、三防隊員、派、新、船、ス	

0092

41.

隊	主	區分	部	隊	力	兵	第二據地隊 司令 部 及 隊
							第三隊 陸警隊 警衛隊砲隊(一部) 防空隊 五機銃小隊 防空隊 五機銃小隊 水警隊 大發回隻拿捕艇六
新興丸 第五驅潜隊(長良丸系一驅南丸系二驅南丸) 第一號敷設艇 第二號敷設艇 第四號敷設艇 一〇一驅潜特務艇 一二〇驅潜特務艇 第三海南丸 第六號驅潜艇	蒼鷹 鷹馬	第十 二 第	指揮官	擔任區域	主要任務		
	率			南部 七レビス島	一 全作戦支援 二 敵兵力撃破 三 占領地域確保 四 對空警戒 五 哨戒敷設掃蕩 六 海上交通確保 七 港務 八 水陸施設整備		

(2) 第二十三特別根據地隊麾下兵力部署

0000

0093

警備隊 「トスシカ」	警備隊 「トスシカ」	第四警隊	第三警隊	第二警隊	第一警隊
第三警備隊	第六警備隊	「ケンカリ」方面所在艦艇	「メナド」方面所在艦艇	「マカッサル」方面所在特令艦艇	「トスシカ」諸島海域所在艦艇

三 特 別 根 據 地

第三警備隊司令	第六警備隊司令	先任指揮官	先任指揮官	先任指揮官	先任指揮官
近海 「トスシカ」西部 「バタビヤ」近海	近海 「トスシカ」東部 諸島（「スレバ」）	近海 「ケンカリ」及 「アトトン」島	近海 「メナド」近海 「モルッカ」近海 「セレベス」海	近海 「マカッサル」近海	諸島海域 「トスシカ」
一 敵兵力撃破 二 對濠洲及印度洋 據點確保 三 所在附近警備 四 對空警戒 五 水陸施設整備			一 敵兵力撃破 二 哨戒據點掃蕩 三 海上交通確保		

0094

47.

<p>隊 空 航</p>	<p>警備隊 ケンカリー</p>	<p>警備隊 メナド</p>
<p>九三三空三三。基地派遣隊</p>	<p>第三三特別根據地隊派遣隊</p>	<p>第三警備隊派遣隊</p>
<p>官 令 司 隊</p>		
<p>派遣隊 指揮官</p>	<p>分遣隊 指揮官</p>	<p>派遣隊 指揮官</p>
<p>マカッサル近海 及小スンダ 諸島</p>	<p>東南部 セレベス及 諸島</p>	<p>北部 セレベス</p>
<p>一敵兵力撃破 二上空警戒 三對塔哨戒 四敵情偵察 五海上交通線確保 六水陸施設整備</p>	<p>一敵兵力撃破 二占領地域確保 三所在附近整備 四對空警戒 五水陸施設整備 六港務</p>	<p>一敵兵力撃破 二占領地域確保 三所在附近整備 四對空警戒 五水陸施設整備 六港務</p>

4

000

0095

(二) 作戰指導

(一) 陸上作戰

敵ハ南方水域殊ニ小ノスニ列島ヲタニバル諸島方面ニ及撃ヲ入出圖スル
モノノ如ク曩ニ南西部隊電令作第五四號及第五五號ニ依ル警戒ニ嚴ニル
共ニ麾下ニ對シ特ニ嚴重ナル對空警戒ヲ實施シ防備強化ニ努メ極力諸
訓練ヲ實施シ戰務的教育徹底就中陸戰ヲ主トシ戰力ノ向上ニ努ム
(二) 海上作戰

セレバ近海ニ於ケル敵潜水艦ノ出没頻繁ナル現状ニ鑑ミ機密中
警備部隊命令第五〇號ヲ發令港灣附近ノ對潜哨戒ニ掃蕩ヲ實施
シ特ニ海上交通保護ニハ警備艦艇ノ全力ヲ舉ゲテ之ヲ實施セリ
十二月中ノ敵潜出没狀況及經過別表(一)(二)及別圖其ノ一其ノ二ノ通

(三) 航空作戰

九三ニ空ノ一部ヲ以テマカツルニ在リテ敵情ニ應ジ小ノスニ方面ヘノ掃蕩準備

0096

48)

ヲ整フルト共ニ高隊担任警備區域ノ船舶護衛對潜對空哨戒ニ任ゼリ

(六) 戦備及政策事項

一) 戦備
極力之が充實ス圖ルト共ニ特ニ訓練ノ勵行ト相俟ツテ人的戦力ノ充實ニ
努メ敵産兵器ノ活用ヲ計リ兵器需品ノ尊重愛護ノ念ヲ喚起セシメ物的
戦力ノ低下ヲ防止シ之が完備ノ狀況ニテリ

(二) 政策事項

進駐一ケ年ヲ迎ヘテ高方面ノ復興治安ノ回復ハ順調ニ進捗シ特ニ現
住民ヲシテ皇軍ノ信頼ノ念ハ一層高ラレツアリ其ノ他民政部民政部
ト緊密ナル連絡ヲ保ケ産業開發茲ニ軍需資源ノ開發促進等積
極的ニ支援ニ努ム

0097

別表(一)
十二月中敵潜出没經過

日	位置	概
七日	ES 一〇度四分 E 一三度六分	新興丸雷撃ヲ受ク被害シテ名鷹攻撃ニ向ク
八日	EN 〇度五分 E 一〇度三分	球磨雷撃ヲ受ク被害ナシ爆雷ニ投射
九日	「タラカ」東一五度附近	2/CF 方位測定ニ依ル推定法遺
九日	「マカツル」近海	敵潜ト推定 通信探報
十四日	ES 一七度四分	2209 情報
十五日	「スラバヤ」水道北口	「スエズ」丸雷撃ヲ受ク
三十日	「カンカ」南オホシロ島 南オホシロ島	金山丸敵潜ノ砲撃ヲ受テ沈没

要

0098

自昭和十八年一月十一日 第二十三特別根據地隊戰時日記
至昭和十八年一月三十一日

一 經過

(1) 一般情勢

東印度方面各要地、戡定ト相俟ツテ敵水上艦艇ノ出沒ハ殆ド認メザルモ敵ハ航空機及潜水艦ヲ以テ「ゲリラ」戰ヲ續行シツアリ尚最近敵ハ北部濠洲方面及南太平洋方面ヲ基地トシ活潑ナル動キヲ見セツアリ特ニ小「スダ」列島及「チモール」島「アル」タニバル諸島方面ニ對シ機動及撃ヲ算大ナリ東印各部隊ハ友軍陸海軍部隊ト協カシ擔任區域ノ防備ヲ強化スルト共ニ敵兵力ノ捕捉撃滅ヲ圖リツツアリ

(2) 敵軍ノ狀況

當隊警備擔任區域ニハ殘敵ヲ認メザルモ海上ニ於テハ尚敵潜水艦出沒ノ跡ヲ絶ズ特ニ本月初旬以降敵潜水艦ハ警備地區沿岸ニ出沒シテ通

8099

0099

尙破壊戦ノ強化密偵ノ揚陸後方ノ擾亂並ニ陸上トノ連絡ヲ企圖セル
モノ如シ又南西方面艦隊電令作第六三號ニ依ル索制作戦當時ニ於ケル
敵機ノ来襲ハ頻繁ニシテ九日「フィンガップ」方面十四日「ケンダリー」方面十七日
「マツサル」方面ニ。日「メナド」方面ニ十五日「ケンダリー」方面ニ夫々四發一機来
襲セルモ偵察ヲ主トシ僅ニ機銃掃射傳單撒布セシニテ被害ナシ
東印東部方面ニ於ケル敵航空機ノ来襲狀況ニテ「小スンダ」列島及
「ケンダリー」方面ハ特ニ嚴重ナル警戒ヲ要スル狀況ニ在リ

(ハ) 任務編割配備

(一) 主要任務 (機密東印部隊命令作第一號)

- (1) 「小スンダ」列島ヲ割シ隣接警備部隊ト協力ノ下ニ北部濠洲及印度
洋方面ニ對スル第一線據點ヲ確保ス
- (2) 擔任區域ノ防備警戒ヲ嚴ニシテ之ヲ確保ス
- (3) 特ニ敵航空機ノ奇襲ニ備ヘ之ヲ撃破スルト共ニ敵潜水艦ノ掃蕩ヲ

0100

50.

平制作戦？
GFR 命令作才六三号に依る
平制作戦当時口あり云々

積極的且徹底的ニ實施シ之ヲ殺滅ス

- (4) 隣接警備部隊ト連絡ヲ密ニ海上交通線ヲ確保ス
 - (5) 敵信利用ニ依リ敵情偵知ニ努ム
- (二) 編制配備
- (1) 本隊及「ケネディ」分遣隊ノ編制配備左表ノ如シ

2

0010

0101

本隊（二月三十一日現在）

部	隊	編		制		計	裝	備	配	備
		官	准士官	下士官	兵					
司令	部	(業一)	一	一	二	(業三)				
陸警衛	隊	(業一)	三	五	二	(業二)	九四式輕裝甲車 一	陸警ヨリ入ル飛行 場整備ノ為ニ分 隊派遣		
警砲	隊		一		五	三	七五種山砲 四門			
防空	隊			一	二	九	三五種機銃 一基	ロロレロ等ノ機銃 タイソノ等ヲ半ヤン 等ニ防空見張所ヲ配 ス		
水警	科		二	一	一	一	大艇 四隻			
港務補給	科	(業一)	四	一	三	四				
通信	科		一	四	四	八				其他ハマカツル市 附近ノ整備ニ従事
機関	科		二	六	六	六				
醫務	科	(業一)	九	二	二	四				
主計	科	(業一)	三		四	二				
計		(業五)	三六	一六	六五	三				
		(業七)								五

備考(業)ハ業務ノ略

0102

51

「ケンダリ」分遣隊（一月三十一日現在）

計	主計科	医務科	機関科	通信科	港務補給科	水警科	陸警衛隊	本部	部隊	編
							防空隊			
(景) 五		一				一		二	士官	割
八			一	一	水警科兼務		五		准士官	
三四一	一三	五	二五	一〇		三六	七一	一七四	下士官兵	七
(景) 三五四	一三	六	二六	一一		三七	七二	一八〇	計	九
										装
										備
										配
										備

歩兵砲 二門
 九五式軽戦車 一台
 四〇糎機銃(重砲) 四
 四〇糎機銃(重砲) 四
 分遣隊(同) 四
 大砲 五隻
 「ケンダリ」ニ於テ
 警備ニ従事
 「マヌイ」「ウウニ」
 「ラハ」「バウバウ」ニ
 防犯見張所ヲ配
 入

0103

(2) 第三十三特別根據地隊麾下兵力部署

隊	主		區分	部
	新興丸 第五十四驅潛隊 (長良丸) 第八昭南丸 第三昭南丸 一敷二敷四敷 (三二〇三二) 特務驅潛 第三海南丸 六驅潛	別隊 水警隊 防空隊 陸警隊 警衛隊 砲隊	第二根據地 三隊 特本隊 司令 部 及	
第十			指揮官	隊
率			擔任區域	
直			主要任務	
近海			南部	隊
セレス島			セレス島	
八水陸施設整備			一全作戰支援 二敵兵力擊破 三占領地域確保 四對空警備 五哨戒敵潛掃蕩 六海上交通確保 七港務 八水陸施設整備	

0104

西 小スンダ 警備隊	東 小スンダ 警備隊	第四警 戒隊	第三警 戒隊	第二警 戒隊	第一警 戒隊
第三警備隊	第六警備隊	「ゲンガリ」方面所在艦艇	「メナド」方面所在艦艇	「マカッサル」方面所在特令艦艇	小スンダ諸島海域所在艦艇

三 特 別 根 據 地 隊

第三警 備隊 司令	第六警 備隊 司令	先任 指揮官	先任 指揮官	先任 指揮官	先任 指揮官
小スンダ西部 （バリコボラ） 近海	小スンダ東部 （スレバ） 近海	「ゲンガリ」及 「ブートン」島 近海	「メナド」近海 「モルッカ」近海 「セレベス」海	「マカッサル」近海	小スンダ 諸島海域
五 水陸施設整備	四 對空警戒 三 所在附近警備	一 敵兵力撃破 二 對濠洲及印度 洋據点確保		三 海上交通確保	一 敵兵力撃破 二 哨戒敵潛掃揚

0105

隊空航	警備隊 「ヘンリ」	警備隊 「メナド」
九三三空三三〇基地派遣隊	第三特別根據地隊分遣隊	第三警備隊派遣隊
官 令 司		
派遣隊 指揮官	分遣隊 指揮官	派遣隊 指揮官
「マカッサル」近 海及「スダ」 諸島	東南部 「セレベス」及 「ブト」諸島	北部 「セレベス」
一敵兵力撃破 二上空警戒 三對潜哨戒 四敵情偵察 五海上交通線確保 六水陸施設整備	一敵兵力撃破 二占領地域確保 三所在附近警備 四防空警戒 五水陸施設整備 六港務	一敵兵力撃破 二占領地域確保 三所在附近警備

0106

(二) 作戰指導

(一) 陸上作戰

南方水域殊ニ小「スズ」列島方面ニ敵及撃ノ算大ナルヲ以テ警戒ヲ嚴
ニシツアリシ處九日及十四日夫々「フインガップ」及「ケンガリー」ニ夫々敵機一機
飛來セル狀況ニ鑑ミ十五日以降特ニ嚴重ナル對空警戒ヲ實施シ更ニ二十
日以後南西方面艦隊電令作第七〇號ニ依リ麾下ニ對シ嚴重ナル警戒
ヲ實施シ防備強化ニ努ムルト共ニ極力諸訓練ヲ勵行シ教育ノ徹底
就中陸戦ヲ主トシ戦力ノ向上ニ努ム

(二) 海上作戰

「セレバス」近海ニ於ケル敵潜水艦ノ出沒特ニ頻繁ナル現状ニ鑑ミ昨年末
機密中部警備部隊命令第二〇號ヲ發令シ「マカッサル」港灣口附近ノ常
時對潜哨戒セシガ更ニ機密中部警備部隊命令第三號ヲ發令シ中南
部「セレバス」西岸ノ對潜移動哨戒並ニ掃蕩ヲ實施シ特ニ海上交通保護

53

5

0107

ニ警備艦艇ノ全カヲ擧ゲテ之ヲ實施セリ。蒼鷹ハ二十三日「ガラヤル」水道ニ於テ名取ヲ雷撃セル敵潛ヲ捕捉シ之ニ對シ果敢ナル攻撃ヲ加ヘ確實ニ撃沈セリ。一月中ノ敵潛出沒狀況及經過別表及別圖ノ通

(三) 航空作戦

九三ニ空一ノ部ヲ以テ「マカッサル」ニ在リテ敵情ニ應ジ「スダ」方面ヘノ轉進準備ヲ整フルト共ニ當隊擔任警備區域ノ船舶護衛對潛哨戒ニ任セリ。

(ホ) 戦備及政策事項

(一) 戦備

極力之ガ充實ヲ圖ルト共ニ特ニ訓練、勵行ト相俟ツテ人的戦力ノ充實ニ努メ敵産兵器活用ヲ計リ兵器需品ノ尊重愛護ノ念ヲ喚起セシメ物的戦力ノ低下ヲ防止シ之ガ充備ノ狀況ニ在リ

(二) 政策事項

0108

54.

進駐一ヶ年ヲ迎ヘテ當方面ノ復興治安ノ回復ハ順調ニ進捗シ特ニ現
住民ヲテ皇軍信賴ノ念ハ一層高マリツアル其他民政府民政部ト
緊密ナル連繫ヲ保チ産業開發並ニ軍需資源ノ開發促進等積
極的支授ニ努ム

6

0109

別表

一月中敵潜水艦出沒状況及經過

月日時刻	位置	概	要
一月一日 〇八二〇	ES 大度十五分 一〇六度三分	掃ナ雷撃ヲ受ク直ニ爆雷攻撃ヲ十八個	
" 一八一〇	ES 五度 一三三度	24 CG 21 CG 方位測定	
" 二〇五〇	ES 四度 一七八度	24 CG 21 CG 32 CG 方位測定	
一月二日 二二〇〇	マカツナル 北方七〇哩	21 CG 方位測定位置	
一月三日 二二〇〇	ES 八度十五分 一三二度	21 CG 方位測定位置	
" 二二〇〇	EN 二四度	21 CG 方位測定位置	
一月九日 一〇四〇	「カネ」灯台 三五度 一八哩	名取雷撃ヲ受ク	
" 一七一〇	ES 一度四十分 一八九度五分	能登名雷撃ヲ受ク	
" 二二四〇	EN 〇度四十五分 二八度四二分	四敷敵潜ヲ聴知爆雷攻撃	
一月十日 一七二〇	ES 大度三十二分 一一五度五分	晴山丸雷撃ヲ受ク	

0110

55

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	一月十一日一九二〇	
〇〇三〇		二二五〇	一四一〇	一四〇五	一月十三日一〇一二	一月十七日一〇一〇	一月十六日一九三一	一三三〇	一月十五日〇一三〇	一九二〇		一月十一日一九二〇	
カバ子島北西二五哩 子島水道西〇	N 一度三十分 E 二二〇度三十分	島西七哩	カバ子島南方可ナアジ 方位一四〇度四〇哩	ES 二九度四六分	ES 二二〇度三五分	ES 二二七度七分	ES 二二七度八分 ES 二二七度七分	ES 二二七度七分 ES 二二七度七分	ES 二二七度七分 ES 二二七度七分	スラバヤ、東北七〇哩附近	ES 二二七度五分 ES 二二七度五分	ES 二二七度五分 ES 二二七度五分	ES 二二七度五分 ES 二二七度五分
光丸雷撃ヲ受ケ沈没	2/cg 方位測定「マシカ」ハット角東北九七哩	2ch 海上潜水艦発見	球磨飛行機潜没中ヲ発見 投弾二	球磨飛行機雷跡四発見	名取雷撃ヲ受ケ沈没 確實二一隻撃沈	5ch 探知撃沈 確實 二隻	名取雷撃ヲ受ケ沈没 確實二個投射	2ch 932fg 飛行機協同一隻撃沈	5ch 探知撃沈 確實	2/cg 方位測定位置	5ch 探知撃沈 確實	極洋丸雷撃ヲ受ケ	通信牒報

7

0111

一月三十一日。一四〇。	ES 二七度。五分 二五度。一分	桑山丸 雷撃ヲ受テ被害ナシ
一月三十五日。〇八三五	ES 二七度。六分 二七度。六分	高雄丸 雷撃ヲ受テ被害ナシ
〃 一四三五	ES 二七度。六分 二七度。六分	5th 係知攻撃 撃ヲ沈確實

0112